

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500139		
法人名	株式会社三共医科器械		
事業所名	あったかいごグループホームアテルイ		
所在地	岩手県奥州市水沢区佐倉河字石橋7番		
自己評価作成日	平成25年9月25日	評価結果市町村受理日	平成26年2月21日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念の「共にゆったり、共にいっしょに」をモットーにその時々々の状態に合わせてゆったりと楽しく、できることを共に行いながら、側面的な支援をさせていただいております。看護職員が業務に入っており、普段の健康管理や異常時、緊急時の対応が敏速にできるように介護員と共に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391500139-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&amp;Ji_gyosyoCd=0391500139-00&amp;Pr_efCd=03&amp;Ver_si_onCd=022</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年10月21日

・事業所名の「あったかいご」は「温かい」「個々に合った介護」の意味を含んでいる。グループホーム独自の理念、「共にゆったり、共に一緒に」一人ひとりに寄り添いその人のペースで過ごせるように支援している。  
・旬の食材を取り入れ、季節を感じられるような献立に配慮している。利用者と共に準備、片付け等を行い、食事の際は職員がテーブルを共に囲み、会話しながら和やかに食事をしている。  
・週3回の入浴の機会があり、バイタルチェック、体調確認のうえ、主に午後の時間帯で希望を確認しながら、柔軟に入浴の支援を行っている。1対1の個別対応でゆったりと入浴出来るように介助している。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回のスタッフ会議、1日3回の申し送りを通じて職員が意見を出し合い理念の共有を測り、利用者様が和めるように取り組んでいる。日々の過ごし方は利用者の意思や選択により自由に生活していただけるようにしている。	事業所名の「あったかいご」は「温かい」「個々に合った介護」の意味を含んでいる。グループホーム独自の理念、「共にゆっくり、共に一緒に」一人ひとりに寄り添いその人のペースで過ごせるように支援している。訪問時も、職員が利用者へ寄り添い、ゆっくり過ごしていることが見て取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年は、地域との交流の一環として、幼稚園の運動会見学に行き、地域との交流を実施。	自治会に入り、敬老会の案内等もいただいている。隔月、社協ボランティアの訪問があり、レクリエーション等で交流されている。今後は子供会との交流も計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者様の知人のご家族が認知症の方をお連れして施設内で気兼ねなく面会時交流できる環境にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月毎の開催で、取り組み、利用者様の状況等を報告して、地域情報や運営方法について助言などをいただいている。	運営推進会議の中で提案があり、地域の夏祭りや幼稚園の運動会への参加がスムーズに行っている。交番や消防からの参加があり、防犯や防災面においてもアドバイスがあり安心感につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	将来的に在宅酸素が必要な場合、グループホームで継続入所可能かとの主治医からの問いがあり、判断が困難な事例等は都度相談している。	困難事例、判断に困った際には相談することが出来ており、協力関係が築かれている。運営推進会議には奥州市長寿社会課からの参加がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わない方針を提示し、確認しあっている。	日中は施錠せずに利用者様の戸外に行きたい希望に出来るだけ対応するようにしている。	「身体拘束ゼロの手引き」を確認する等、勉強の機会を設け、理解を深めることに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岩手県高齢者権利擁護推進資料を職員に提示して学んでいる。常に皮膚の状態の観察、身体の変化を確認しあっている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム アテルイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の人権を脅かさないように、日々の会議に活かしながら支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時に重要事項説明書で説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の声や生活状況から思いを汲み取り、必要な物、必要な事を意見を汲み取り支援している。	おやつを近所に買いに行きたい要望に沿って支援したり、部屋の空調の調整等細かな希望にも対応するようにしている。利用者の中には、なかなか意見を表せない方も多く、面会の際などに家族の希望等を伺うようにもしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議等で職員からの意見や提案、福祉部の意見もとりいれている。	電動ベットの導入、レクリエーションの用具、ビデオ等は職員の意見、提案が反映されている。定期的に役員への訪問や、交流の機会があったり、普段から職員が意見を表しやすい環境が整っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	福祉部会において、施設の現状、職員勤務状況等や個別面談での声を伝えている。公休希望の受け入れをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修参加者が持ち帰り施設内研修を随時している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、定例回への参加、研修時の内容により管理者以外の職員も参加している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化に困惑しないように、各スタッフが利用者様の今までの生活や思いが継続できるようにご家族からの聞き取りや本人の思いを理解して支援できるように情報を生かしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話での相談や来所時にできるだけ話しができるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様の居宅ケアマネやサービス利用時に訪問し情報を得利用者様の様子を伺い本人の意向に添ったケアに結びつけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で一緒に作業やテレビなども一緒に見たりしながら、のんびりと過ごすなかで信頼関係が構築できている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の生活上、健康上で心配なこと等を、面会時や状況に応じて電話等でお伝えしご家族の思いを汲み取りながら支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人等の面会は連絡なしで自由に面会できるようにしている。ご家族様にも本人の馴染みのものなどの持ち込も奨励している。	手紙や電話の支援、馴染みの場所への訪問については、ご家族と相談しながら対応されている。知人友人が気軽に訪問できるように声掛けをしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う同士で過ごせるように配慮し、利用者様同士で関わりを持てるように職員が取り持ち支援している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の支援の中で本人の思いを汲み取るようにし、スタッフ会議等で話し合い検討している。	アセスメントにはセンター方式を活用している。本人からの聞き取りが困難な場合には家族に、これまでの経緯を伺う等、より本人本位な検討がなされている。連絡ノートを活用したり、毎月開催されるスタッフ会議は全職員が参加できる時間帯に開催されており、情報共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様、ご家族との会話の中から情報を収集し把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	センター方式を活用して、各自の生活リズムを理解しながらご本人の(できること)(できないこと)に注目し生活の様子等を記録し総合的な理解に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のスタッフ会議で利用者様全員のカンファレンスを行い、その時にご家族の意向等もお伝えしながらサービス計画書作成している。	3ヶ月に1回、定期的な見直しと状態変化がある際に、見直しを行っている。スタッフ会議は全職員が参加し、情報の共有を図り、本人本位の介護計画を検討している。担当職員だけでなく、本人・家族の希望、全職員の意見を踏まえ、主治医の意見書も参考に立案している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録があり、生活の様子、食事量、水分量、排泄等を記録している。又、申し送りノートや業務日誌、申し送りで情報の共有を測っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	歯科の希望者の往診。退院後の状態の低下に即して車椅子の使用や、電動ベッドの利用など柔軟に対応している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム アテルイ

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の関連機関(消防署、交番)にも運営推進会議に参加していただき、常日頃連携を持ち安全な暮らしができるように支援している。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続希望されている方が全員で、定期受診についてはご家族対応が基本であるが、ご事情により職員が代行している。	家族の協力により、かかりつけ医の受診を継続して行っている。受診連絡表で日常生活の状況を伝え、また、緊急時については職員が対応することもあり、状況に合わせて適切な医療を受けられるように支援されている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務していて、介護職との情報の共有、健康管理、健康相談を行っている。24時間体制で非番の時も必用により介護職から連絡、相談し指示を得て対応している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、必要に応じて生活の様子などを情報提供している。退院前にはご家族の了解を得てから病院関係者と連携をとり、退院後の混乱なく生活できるように支援している。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制指針を説明し、ご家族より同意を得ている。利用者様の状況に応じ随時ご家族と早めに話し合いを持つよう努めている。	現在は、重度化や終末期に該当する利用者はいない。正看護師が常勤で勤務しており、健康管理や予防に努めている。状態変化の都度、家族とは話し合いが持たれている。	今後の重度化も想定し、利用者の既往症、病気について理解を深めることや、事業所で出来る対応について、家族に十分説明し、早い段階から家族と方針を共有する等の対応も検討しつつ、支援に取り組むことに期待したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し自施設で勉強会している。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の訓練予定している。今年度は消防署の協力をお願いしてある。	今年4月に日中想定訓練を実施した。11月にも予定している。	避難に要する時間を測定・確認することや、夜間想定または夜間訓練、薄暮時以降の足場の確認、災害時の備蓄等についても検討し、非常時に備えることを望みたい。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	指示、命令口調にならないように声かけを羞恥心に配慮した支援がおこなえるようにスタッフ間で話し合い、お互いに注意あっている。	本人の希望を確認しながら、同性介助等に対応している。記録物については鍵のかかる場所に保管するなど個人情報等の取扱いには配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の場面で思いを引き出し、声かけを短的に要点を伝え、自らの選択でできるように支援している。終えた後は達成感を得ることができるようにより声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、業務優先ではなく、利用者様のペースに合わせて柔軟に支援を行えるように当日のスタッフ間で連携を取り支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替え等は、当日、入浴前に本人に選んでいただくようにしている。散髪は出前もあるが、美容院、希望の方にも対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と広新聞広告や料理本をみて、献立担当者は食べたい物を聞き取り、食べたいメニューを取り入れている。	旬の食材を取り入れ、季節を感じられるような献立に配慮している。利用者と共に準備、片付け等を行い、食事の際は職員がテーブルを共に囲み、会話しながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月初めに体重測定。毎食の食事・水分摂取量記録している。特に脱水状態にならないように十分な水分補給をしているが、飲みたがらない方には、少量ずつ飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前には、口腔体操、毎食後には口腔ケアの声かけや介助している。朝の義歯装着時にはうがい後に義歯装着介助している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム アテルイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや排泄時のサインを見逃さず、声掛け誘導を行い、自立して排泄できるように取り組んでいる。	排泄チェック表を用いて個々の排泄パターンを把握し、尿意がない方でもトイレで排泄出来るように支援している。入居以前にリハビリパンツを使用していた利用者が布パンツ使用にレベルアップされた事例もあり、自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通の良い食事(植物繊維を多く含んでいる食材)。ヨーグルトは毎日果物にかけて毎日取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴、と拒否が日常的にある方は随時の入浴を行っている。	バイタルチェック、体調確認の上、主に午後の時間帯で、希望を確認しながら入浴の支援を行っている。1対1の個別対応で、ゆっくりと入浴できるように介助をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各部屋の室内の照明の調整や不眠の時には、ホットミルクを提供するなど工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が各自の服薬情報シートをファイルしていて全職員が閲覧し把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様のご希望に添って支援している。事情により、面会の少ない方には、通院対応時の帰りに、希望時は買い物支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様のご希望や状況に合わせてご家族と相談しながら。外出支援している。	日常的に戸外を散歩する機会があり、近所のコンビニへ出かける等の対応は随時なされている。花壇にプチトマトや大葉を植えており、収穫すること等も楽しみとなっている。季節行事としてドライブ外出や、地域の祭りにも出かけられるように支援している。	



岩手県 認知症対応型共同生活介護 あったかいごグループホーム アテルイ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の利用者様は少額ではあるが、本人、ご家族の希望で所持していて、近くのコンビニなどで希望時買い物支援している。施設の方針として外出時に買い物希望者様には、ご家族に事前に相談し、施設で立替ってお金が使えように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来た時は、ご家族、ご本人の了解を得て開封して呼んで上げる事もある。電話は取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内には、ソファや畳敷きの小上がり、長椅子を各所に起き利用者様がくつろげるようにしている。	食堂テーブルの他、小上がり、長椅子、ソファ、座イス等が設置されている。利用者それぞれの落ち着く場所にポイント的に植物を置くなど、癒しの空間づくりにも配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事の席に関しては、一方的に決めずにその時どきに利用者様の状況に合わせて柔軟に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族と相談しながら、落ち着いて生活できるように、思い出の物を持ち込んでいただけるようお願いしている。	家族の写真を飾ったり、テレビ、家具、遺影等を持ち込んでいる利用者もあり、それぞれ居心地の良い居室作りがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の内部には自力で安全に歩けるように、手すりを設置している。		